

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年3月29日

事業所名: ののはな教室

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		グループの子どもの特性を考慮し、別れて過ごすなど工夫している。	
	2 職員配置数は適切であるか	○		国の基準以上の人員を配置している。	職員の研修や休暇が取りやすくなるよう、より充実を図っていきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		環境の構造化、視覚支援を積極的に行っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日の清掃・消毒などを行い、整理整頓を心がけている。	洗濯機の設置場所、シャワー室の扉に課題がある。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		どこまでニーズに応えられているか分からないが、努力している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		京都市の実地指導(文書による指摘なし)、法人の監事監査(要改善事項なし)を受査した。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか				コロナの影響で中止になった研修が多く、状況を見ながら研修を受けられるよう考えていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		個別の聞き取り以外にも、必要があれば事業所内相談の時間を設けている。	
	11 子どもの適応行動の状況を計るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			職員からの意見の出にくさがあるので、発言しやすいように考えている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		通所の頻度から、ある程度固定されたプログラムを経験することで安心感が得られ、その上で少しずつの変化をつけていくようにしている。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		療育中に個別活動を組み込んでいる。		

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	○		支援の前後に打ち合わせと振り返りをしている。	親グループの報告、記録の在り方を、全員が共有しやすいように改善していく。
	18	○			
	19	○		支援の記録を作成し、次回に向けての計画を記入している。	
	20	○			
関係機関や保護者との連携	21	—	—		すべての方がセルフプランのため、サービス担当者会議が行われなかった。
	22	○		区や学区の子育て支援ネットワークに積極的に参加している。	
	23	—	—		医療的ケアが必要な子ども、重症心身障害のある子どものご利用がなかった。
	24	—	—		
	25	○		並行通園先や区や市の関係機関との連携を積極的に行っている。また、入学先の小学校とも、利用者の希望で療育の現況報告書などにより情報共有等を行っている。	
	26	○			
	27	○			
	28		○	事業所としてそのような機会は作っていないが、法人として法人のイベントに参加することがある。	
	29	○			
	30	○		毎回療育中の映像を親グループで共有し、子どもの姿の説明、報告をしている。親グループへのフィードバックの中で補えるように努力している。	
31		○		親グループで行える、グッズづくりなどの支援を引き続き行っていく。	
保護者への説明責任	32	○			
	33	○			
	34	○			
	35		○	親グループを行っている。	
	36	○			保護者からの相談や苦情に対して、対応の迅速な判断や決定ができるように努めていきたい。

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
仕等	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	定期的な発行ではないが、必要に応じてお知らせのプリントやメールでのお知らせをしている。	ホームページの周知や、更新頻度を上げる改善に取り組んでいきたい。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			廃棄する機密文書は溶融処理を行う。また、電子データへのアクセスの際のパスワードによる管理を徹底していきたい。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	コロナの影響で、地域住民を招待する法人祭が中止になった。	
非常時などの対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			緊急位の対応について、京都保育福祉専門学院との共同体制を築くよう引き続き働きかけていきたい。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	—	—		身体拘束は行わない旨を職員間で共有し、保護者とも共有していきたい。